

# 【No.4 埼玉県DX推進支援ネットワーク】

● **活動地域** 埼玉県

● **【埼玉県DX推進支援ネットワーク】の特徴**

■ **特徴① 27機関のNW**

■ **特徴② 三位一体課題解決**

■ **特徴③ 構成員スキルアップ支援**



## 設立の背景・主な構成員

### ● **地域DX推進コミュニティ設立の背景・きっかけ**

埼玉県内企業のデジタル実装を加速するため、企業経営者との豊富なネットワークを有する地域金融機関や経済団体と連携した支援体制として、埼玉県が主導して設立した。各機関の支援体制の裾野を拡大し、企業のデジタル化フェーズに応じた、きめ細やかな支援活動を関係機関一体となって展開している。

● **代表機関**：（公財）埼玉県産業振興公社  
企画立案・NW内調整、事業プロジェクト推進

### ● **事業構成員**：

- **経済団体**(埼玉県商工会議所連合会他)・**支援機関**(さいたま市産業創造財団他)  
DX推進に向けての課題整理・経営計画立案等のサポート（伴走支援）
- **地域金融機関**（埼玉りそな銀行、武蔵野銀行他）  
資金調達等のサポート（伴走支援）
- **IT系支援機関**（埼玉県情報サービス産業協会、埼玉ITコーディネータ協会）  
マッチング支援
- **埼玉県、さいたま市**  
当ネットワークの代表・構成機関として本事業をサポート

## 支援活動の内容

### ① **地域企業のDX推進に向けた課題分析・戦略策定の伴走型支援**

経営課題の整理、ソリューション導入の検討に留まらず、導入にあたっての資金調達までを伴走支援する三位一体課題解決モデルを実践する。27機関のネットワークを活かし、支援企業毎に柔軟に支援チームを組む体制を整備する。

### ② **地域企業とソリューション提供事業者（ITベンダー等）とのマッチング**

個別案件の内容に応じて、ソリューション提供事業者や構成員の情報サービス産業協会等と協議を行い、企業ニーズや熟度等に適したソリューションを選定した上でマッチングを実施する。

### ③ **その他、地域企業のDX推進に向けた支援活動**

DX機運醸成に向けたセミナーを実施することに加えて、DX推進にノウハウを持つ専門家（ITコーディネータ協会等）の協力を得て、課題解決支援のノウハウやソリューションの最新動向等を学べる講習動画を作成し、構成員向けにオンデマンド配信を実施する。支援人材のDX推進活動のスキルアップを図り、ひいては地域DX推進体制の底上げにつなげる。

## ● **キーパーソン**



➤ **代表機関**：山脇 隆司

デジタル活用コーディネーターとして長年AI・IoTをはじめとするデジタル化普及支援に従事し、県内企業のデジタル化の実情を熟知。本事業ではPLとして伴走支援・マッチング支援の中核的な役割を担う。



➤ **代表機関**：岩田 昇資

ロボットコーディネーターとして、先端デジタル技術を活用した新製品・新サービス等の実証実験・社会実装の支援に従事。本事業ではデジタル化支援のノウハウを活かし、SLとして参画し、事業全体を通してPLの補佐役を担う。

## ● **問い合わせ先**

公益財団法人埼玉県産業振興公社 デジタル・技術支援グループ 岸：048-621-7051、iot@saitama-j.or.jp

# 【No.4 埼玉県DX推進支援ネットワーク】

## 支援スケジュール（令和4年度実績）

第1term【6月】

第2term【8月】

第3term【9月】

第4term【1月】

### 支援先企業の募集開始（6月）

募集企業数：20社（NW構成機関からDXに意欲的な企業をご推薦いただいた。業種や規模での制約はかけていない。）  
応募企業数：20社

### 支援先企業を確定（11月）

ご応募いただいた20社全社を支援先企業とした。

- 業種別内訳  
製造11社、運輸3社、卸売2社、建設2社、医療1社、宿泊1社
- 規模別内訳（従業員数）  
50名未満10社、50～100名未満8社、100～1,000名未満1社、1,000名以上1社

### 支援開始

- ※ 事業を説明後、支援が決定した企業から順次支援を開始（以下、次頁「支援好事例」の経緯を記載）
- ・ 公社及び支援先の取引金融機関で支援チームを組成
  - ・ 支援企業の経営課題を整理・分析し、DXの方向性を確認
  - ・ DX計画書（たたき台）を作成し、複数回議論

### マッチング

- ・ 支援企業のニーズにマッチするソリューションを調査・選定し、ITベンダーとのマッチングを実施。
- ・ 複数のソリューションを比較し、導入ソリューションを決定。

### 資金調達支援・支援完了

- ・ システム導入の資金調達に向け、活用可能な補助金を紹介の上、申請書添削等の支援を実施。
- ・ 補助金採択を確認後、DX計画書の最終提案を経て、納品し支援を完了。

### 他の支援企業支援

- ・ 他の支援企業においても「課題分析・戦略策定」、「マッチング支援」等を実施中。

### NW構成機関向けスキルアップ動画企画検討・調整

- ・ スキルアップ研修(10本)のテーマを決定し、講師調整を開始。
- ・ 調整が完了したテーマから、順次動画を撮影。

### セミナー開催支援の対象セミナー募集開始

- ・ セミナー経費支援のスキームを確定し、NW構成機関への募集を開始。

### セミナー開催支援採択

- ・ 3件のセミナーを採択（R5.3現在）
- ・ スキルアップ研修動画のWeb掲載
- ・ 10本の動画を公開（R5.3現在）

### ・ 事業実績：支援を実施した企業数（①課題分析・戦略策定、②課題分析・戦略策定・ベンダーとのマッチングの内訳）、実績結果への所感等

支援先企業20社全ての「課題分析・戦略策定」を完了し、その内10社に対し「ベンダーとのマッチング」を実施した。  
この支援を実施することで、支援先企業の経営者等がDXの重要性を改めて認識し、「戦略策定」により各社の変革への素地が完成した。  
DXの達成には長期に渡る不断の努力が必要であるため、令和5年度以降も継続してフォローする予定である。

### ・ 波及効果について：

当事業の先行的な支援例をモデル支援の位置づけとして効果的にPRすることにより、DX支援の希望企業を多く募ることができた。  
来年度は支援好事例を当ネットワーク構成機関が実施するセミナー等でPRすることにより、横展開を図るとともに、更なるDX気運を盛り上げていきたい。

### ・ 自走化への道筋：受益者負担の考え方、構成員への会費負担の引き上げ、広報活動の強化等

令和5年度以降の継続的な支援のため、埼玉県のDX支援事業と統合することでより効果的な支援をしていく。

# 【No.4 埼玉県DX推進支援ネットワーク】

## 支援好事例（令和4年度実績）

支援先企業名：製造業A社（企業名非公表）

### ● 支援先企業の概要：

- ・業種：工業用合成樹脂加工&プラスチック切削加工業
- ・資本金：1,000万円
- ・従業員数：52名
- ・主要製商品/サービス：医療・福祉・食品向けプラスチック部品

### ● 支援先企業が抱える課題：

プラスチック・樹脂切削部品市場は、大きな変動もなく底堅い成長が期待できる市場である。しかしながら、新型コロナウイルス感染症拡大による受注減やエネルギー・物価高騰の影響により、この2～3年は厳しい事業環境となってきている。当該企業では、効率化・生産性向上に対し、デジタル技術の活用をいち早く進めてきたが、まだ不完全であることに加え、不安定な事業曲面を迎えたことにより、さらなる効率化と事業の多様化（新市場<試作品市場>への挑戦）を考えていた。従来からのデジタル化に当たっては、今回設置した埼玉県地域DXコミュニティの構成員である埼玉県、埼玉県産業振興公社、地元商工会、埼玉県信用金庫等から様々な局面で支援を受けており、デジタル活用のステップアップに対しても、同様に支援を受けたいという希望があり、この事業の支援企業として参画することとなった。



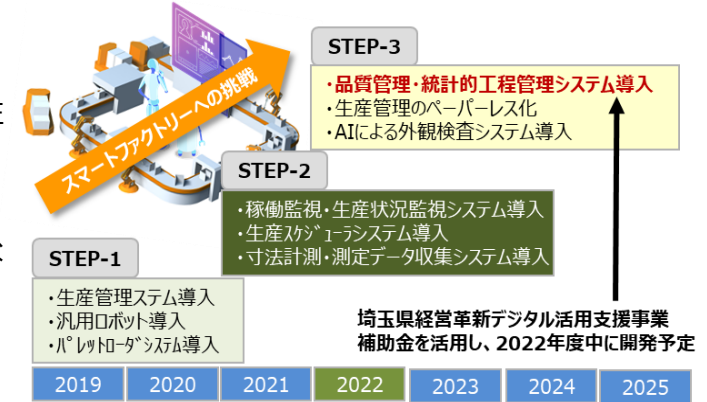
【DX計画策定に向けた打合せ】



【支援先企業製造現場】

### ● 支援内容：

埼玉県産業振興公社及び埼玉県信用金庫（コミュニティ構成員）が訪問し、現状の課題や今後の方向性に関してヒアリング・ディスカッションを実施した後、現在のデジタル化状況（右図STEP2まで）を確認した。ある程度の生産性向上の成果は出ていたが、事業目標としている新市場への開拓には、「短納期」「柔軟な加工対応力」「品質」が不十分な面があった。前2者については、STEP2で導入した機能をチューニングすることで対応力強化をするとともに、未整備の「品質管理」について、より高度なスマートファクトリー化による対応力強化を目指すこととなった。企業との6回程度の会議や補足するメール等のやり取りに加え、品質管理高度化における具体的なシステムを明確化。ITベンダー数社とのやり取りも実施し、STEP3第一弾としての高度な品質管理システム構築を実施することとなった。



### ● 支援成果：

完成したDX推進実施計画書に基づき、埼玉県の経営革新計画を地元商工会の支援を受けて提出後、その結果を受けて経営革新計画承認企業を対象とした埼玉県の「経営革新デジタル活用支援事業補助金」に申請し、採択された。現在は、システム構築を進めているところである。来年度はこの成果を、当ネットワーク機関が開催するDX推進セミナー等で発表することで横展開を図るとともに、公社も県内企業のDX推進の先進企業として継続支援する。

### ● 支援成功のポイント：

従来から、社長を筆頭にデジタル活用に熱心であったことや、公社主催のAI・IoT人材育成など人材育成研修にも多く参加しており、DXの素地があった。加えて、DX計画やその進め方を支援機関と一緒に考えることが支援先企業には心強いものとなり、一体感が生まれたことが成功の要因であると考えられる。